

ドーバー海峡物語

|| 海峡舞台の戦闘劇 ||

(一) 大陸各國は陸軍國であり、海軍力がなければドーバー海峡を支配出来ず、海峡支配が出来ぬ限り對英敵前上陸の見込みは立たないといふ循環論法だ。かういふ次第で、イギリスは海峡における制海權といふことを非常な熱意をもつて保持して來たし、従つてまた、全海峡沿岸および北海沿岸が大陸のある一國の掌中に收められることは、全力を傾げて妨げて來た。わけても、ラングド河口とシエルド河口とに大艦隊が集中されることには、常にイギリスの恐怖するところであつた。

一三四六年、イギリスの最初に経験した大海戦が、シェルド河口でフランス艦隊を相手としたものであつたのは、まさにかゝる理由による。人はよくウイリアム征服者のイギリス敵前上陸の例をもつて、この難事業にあらざることを云々するが、それは、當時の状況を無視した話で、一〇六六年征服王が強大なるラングドを海軍にわたり、ヘースチングスに上陸したとき、イギリスの海軍力は未だ十分の發達をとげてゐなかつたのである。

ところが、フランソワ一世が、一五八八年にフランダーハーから對英敵前上陸を試みたときは、さうはゆかず「必勝艦隊」は見事に敗北してしまつた。ただ、この時以後、ドーバー海峡における決戦が、次第にその數をまして來たことは注意すべきことである。

その第一次オランダ――七年六月、オランダの生んだ偉大な提督トロイデル――この人は古今を通じて最も偉大な海将の一人であるとよれてゐる――は四日間にわたり激闘において海峡にイギリス艦隊を打ち破つた。さうして翌年にはアームズ河を巡航し空前の放膽な作戦行動によつてイギリス帝國のチャタムと

(二) 大陸各國は陸軍國であり、出來ぬ限り對英敵前上陸の見込みは立たないといふ循環論法だ。かういふ次第で、イギリスは海峡における制海權といふことを非常な熱意をもつて保持して來たし、従つてまた、全海峡沿岸および北海沿岸が大陸のある一國の掌中に收められることは、全力を傾げて妨げて來た。わけても、ラングド河口とシエルド河口とに大艦隊が集中されることには、常にイギリスの恐怖するところであつた。

一三四六年、イギリスの最初に経験した大海戦が、シェルド河口でフランス艦隊を相手としたものであつたのは、まさにかゝる理由による。人はよくウイリアム征服者のイギリス敵前上陸の例をもつて、この難事業にあらざることを云々するが、それは、當時の状況を無視した話で、一〇六六年征服王が強大なるラングドを海軍にわたり、ヘースチングスに上陸したとき、イギリスの海軍力は未だ十分の發達をとげてゐなかつたのである。

ところが、フランソワ一世が、一五八八年にフランダーハーから對英敵前上陸を試みたときは、さうはゆかず「必勝艦隊」は見事に敗北してしまつた。ただ、この時以後、ドーバー海峡における決戦が、次第にその數をまして來たことは注意すべきことである。

その第一次オランダ――七年六月、オランダの生んだ偉大な提督トロイデル――この人は古今を通じて最も偉大な海将の一人であるとよれてゐる――は四日間にわたり激闘において海峡にイギリス艦隊を打ち破つた。さうして翌年にはアームズ河を巡航し空前の放膽な作戦行動によつてイギリス帝國のチャタムと

（來る取締役會に上程する

決算の原案の決定をみた）

三、諸提案

西郷

醤油取次

社人獎學會

告白

電話

三一〇

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

九

八

<div